

日韓の戦争遺族が使節団



6月に韓国・ソウルで遺族らに遺骨問題について講演する岩淵宣輝さん。日韓合同の戦没者遺族使節団としてパプアニューギニアを訪れる(岩淵さん提供)

岩淵さん(奥州川)ら民間有志

奥州市衣川区のNPO法人太平洋戦史館会長理事岩淵宣輝さん(70)ら民間有志は日韓両国の太平洋戦争遺族による合同巡礼民間外交使節団を初めて企画し、25日から8日間、南洋のパプアニューギニアを訪問する。遺骨が戦地から返らず心を痛める遺族らが共に現地で追悼。両国関係が竹島問題などでぎくしゃくする中、互いの痛みが分かる遺族交流を通じて友好機運を醸成する。

25日ニューギニアへ

追悼、交流通じ絆強く

父がパプアニューギニアで戦死したのを機に、同国で遺骨帰還活動を続ける岩淵さんと、旧日本軍に動員された韓国人の家族らを支援する在韓軍人軍属裁判を支援する会(古川雅基代表)の主催。岩淵さんと会員2人、韓国側から高仁衡さん(69)、南英珠さん(73)が参加する。

現地滞在は6日間の予定で、多くの朝鮮半島出身者が戦死した東部のウエフクやボイキンなどを訪問。家族が最期を遂げたと思われる地域で追悼式を行い、地元住民の協力を得て遺品収集の手掛かりを探す。同会と岩淵

さんによると、パプアニューギニアでは眞人約6800人、朝鮮半島出身者約4700人が戦死したとみられるが、戦後六十数年が経過した今なお日韓両国とも国レベルの遺骨帰還活動は十分進んでいない。

岩淵さんは一関市出身。1960年代にパプアニューギニアの遺骨帰還活動を始め、現地を270回以上訪問した。

岩淵さんは「国が遺骨の残る戦没地から目を背け、追悼式だけで済ませる現状では戦没者も遺族も救われな」と批判。6月に韓国で遺族らに講演し、「同じ悲しみを体験し、平和を強く望む遺族同士だからこそ分かりあえる。遺族外交こそが両国の絆を強くする」と運動に力を入れる。同会は渡航費の寄付を募集中。問い合わせは古川代表(090・1135・1488)へ。